保一（左）と
巌（右）

進駐軍が減少しても神戸港には軍艦の入港が頻繁にあり、水兵がお土産を買い求めにトアロードに大勢やってきました。クリスマスに使う銀食器目当てで、当時トアロードに銀食器屋が何軒もありました。毛利マークではバッジ職人の技術を生かして銀細工で和風のアクセサリーを作成、日本土産としてよく売れました。

都志子
店内にて

銀細工

クリスマスオーナメント

また、1956 年（昭和 31 年）の秋の国体が神戸で行われトロフィーなどが授与されたことをきっかけに、トロフィーが大量に売れるようになりました。ここにボーリングブームも拍車をかけ、店は大忙しでした。映画館やキャバレー・スナックも次々に建ち、開店時の花輪や館内の装飾用にと造花やクリスマスオーナメントもどんどん売れました。こうして毛利マークも高度経済成長の波とともに充実した時代をむかえました。

建替え前の店舗付き住宅
左からきぬ、保一、巌

1970 年代には三宮市場が地下化し「さんプラザ」が建つなど近隣がビルになり、毛利マークも 1983 年に区画整理に合わせて店舗付き住宅をビルに建て替えました。